



六甲カトリック教会 教会報



あなたの天幕（テント）に場所を広く取りなさい

主任司祭 英 隆一朗, s. j.



前回からシノドスの話を始めました。昨年秋に、全世界の教会から現状の問題や意見を集め、バチカンのシノドス事務局が大陸ステージのための作業文書を出しました。そのタイトルが、『あなたの天幕（テント）に場所を広く取りなさい』（イザヤ 54 : 2）です。これは、イスラエルの民が荒廃から立ち直り、再び繁栄を取り戻すイメージを語っている箇所です。私たちの教会を見直すために、ぴったりのイメージです。

4 月終わりに小教区評議委員で集まって、見直しの時をもちました。大半の意見は、核となるメンバーが高齢化して、教会活動の人手不足が指摘されました。確かに中心メンバーは 70 歳以上の人が多い印象です。今までテントを支えてきた柱の人びとが老いてきたわけで、核となるメンバーの世代交代は大きな課題です。しかしながら、人が足りないからただ穴埋めしようとするのは、安易な対処療法で限界があるでしょう。60 歳代以下の人は人数が少ない上、ライフスタイルも変わってきています。

そのような意見とともに、大切なことは教会の本質を忘れないで、その根本使命から考えるべきという発言も出ました。そのとおりだと思います。教会として本質的な活動が分かっているならば、たとえ少々小ぶりのテントになったとしても、神の目から見て、意味ある存在になり続けることができるでしょう。

また、新受洗者や転入者の方々を大事にしたいという意見も多かったです。テントの場所を広げるというイメージには、新たなものを取り入れて、そこから刷新されていく希望も表されているでしょう。新しい人や若い人に開かれていれば、自ずと新しいテントに変わっていくことができるかもしれません。



5 月 21 日には、酒井司教さまが来られ、中高生 10 名が堅信を受け、大きな希望を感じました。これを弾みとして、中高生会を盛り上げていきたいです。応援をしてください。

また、壮年会が再開されました。各世代の人がどこかの集まりに参加できるように、壮年会は 35 歳以上 70 歳未満の方にして、それより若い方は青年会に、それより高齢の方は三日月会で活動できるような形にしてあります。どの年代の人でも、年代的に近い人の集まりに参加できるならば、テントを広げていく 1 つの具体化でしょう。壮年会に関心のある方はぜひご参加ください。

一回りコンパクトなテントになったとしても、そこに聖霊の力があふれてきて、救いの水を汲みとることができること。ここに教会の本質があるでしょう。そのために深い祈りも必要ですね。祈りから生きた活動と生きた集まりが生まれてくることを願っています。

2023 年度第 1 回小教区評議会議事録(要約)

日 時 2023 年 5 月 7 日 (日) 11:30~13:00

場 所 信徒会館 第 1, 2 会議室

出席者 (敬称略)

英主任司祭、中村助任司祭、宗行議長、堤・松井 両副議長、多田・中村 両書記、
蛭田 (財務部、三日月会)、松平 (宣教・養成部)、中西 (典礼部)、井川直 (地区会)、
井川伸 (社会活動部)、藤井 (婦人会)、小田 (壮年会)、吉村 (教会学校)、本下 (前施設管
理部)、大上 (広報部) 各コーディネータ、詫 (前広報部)

1. 英主任司祭から

- 1) バチカンの要請により 5 月 31 日 (水) の「聖母の訪問の祝日」のミサおよびロザリオの祈りはシノドスのために捧げられる。
- 2) 聖体奉仕者の養成と任命は地区で行うことになっている。人選を経て任命式を夏ごろに行いたい。
- 3) 7 月からベトナム人神学生フォンさんが六甲教会に滞在予定。ニティンさんと同様の仕事をすることになる。
- 4) 4 月末に行われた「小教区研修会」(新旧評議会メンバー合同会議) では教会の高齢化と人手不足、特に若い世代の担い手の不足が問題で、現実を見据えながら、若年・壮年層が中心となるよう世代交代を図りたい。
- 5) 信仰の継承は大切なので、若い世代、新受洗者を大切にしてく。そのために三日月会の役割にも期待したい。
- 6) 壮年会は 70 歳くらいまでを対象にして、それ以上の人は三日月会とするのはどうか。
- 7) 2025 年は聖年、大阪万博もあり、六甲教会として何か有意義な活動をしてはどうか。
- 8) 2024 年は献堂 30 周年にあたる。シノドスと併せて行動したい。また六甲教会の歴史資料の収集整理についても今後の課題としたい。

2. 協議事項

- 1) 今年度の行事予定について
 - ・日時の変更と追加
 - 春の黙想会 5 月 20 日 (土) 14 時半→10 時
 - 教会学校遠足 5 月 28 日 (日) →6 月 4 日 (日)
 - 転入者、新受洗者への説明会 7 月 9 日 (日) 10 時ミサ後
 - 典礼奉仕者のつどい 9 月 10 日 (日) →10 月 1 日 (日) 13 時～
 - 社会活動部学習会 10 月 22 日 (日) →10 月 8 日 (日) 10 時ミサ後
 - 秋の黙想会 10 月 14 日 (土) →10 月 28 日 (土)
 - 教会学校秋の練成会 10 月 28 日 (土) →日時未定
 - 三日月会新年会 2024 年 1 月 22 日 (月) →1 月 15 日 (月) 11 時～
 - ・「納涼の夕べ」に代るイベントについて
 - 8 月 20 日 (日) の 10 時ミサ後に掃除当番地区グループごとに集合し「納涼地区交流会」を開く。
 - ・バザー (11 月 12 日) について
 - 蚤の市を中心とした小規模のものにする。時間帯は 10 時～14 時が望ましい。
 - ・年次報告会
 - 6 月 4 日 (日) 10 時ミサ後に開始。教会財務報告と施設管理部からの事業報告を経て、主任司祭から総括のお話を予定。
- 2) 「小教区研修会」を受けて
 - 小教区評議会は、教会の本質について意見を交わす場でもあってほしい。従来のやり方を踏襲するだけでなく、若い人、新しい人に教会活動に参加してもらえるよう積極的に声を

かけるようにしたい。

3) 教会案内リーフレットの作成

教会を訪れる人のための案内リーフレットの制作を進めている。提示したサンプルについての意見を集約し、7月の「祈りと音楽の集い」に間に合わせたい。

3. 報告事項

1) 平和旬間行事（8月6日）

カトリック、プロテスタント、仏教などそれぞれの話を聴く会を計画中。

2) 施設管理部から

ベルタワーのベル改修工事が、制御盤などの流通が滞り当初の予定より遅れている。

その他、駐車場、藤棚、厨房、屋上防水、聖堂の音響、通信・wifi環境、AEDの設置などさまざまな改修、または検討事項があり、大規模修繕計画を踏まえた長期展望が望まれる。

3) 典礼部

主日ミサの共同祈願文作成を専門部会・信徒会・地区会のうちの13グループに依頼している。だいたい1年に1度の割合で順番が回ってくる。協力をお願いしたい。

復活節第二主日から奉納行列を再開している。10時ミサではホスチアおよび水と葡萄酒の奉納をミサ案内係に依頼している。18時ミサと7時半ミサではホスチアのみ奉納だが、担当は決まっていないので、協力をお願いしたい。

第2回小教区評議会 7月2日（日）12時～ 第1、2会議室にて

以 上

《 おごそかに堅信式 》



5月21日（日）10時のミサ（主の昇天）で、酒井俊弘司教さまをお迎えして堅信式が行われました。コロナで四年間も延び延びになっていたのですが、この日は10人の受堅者のみなさんが代父母とともに一堂に集いました。酒井司教さまは、堅信とは「こどもの信者」から「大人の信者」になること。それは、「に」から「が」へ、さらに「が」から「を」へと成長していくように、すなわち、

___わたし「に」なにかを求めるだけでなく、わたし「が」なにかを行なうようになること、さらに、わたし「を」どうぞお使い下さい、と

信仰を発展させること___が「大人の信者」になることだと、紙に書いた文字を示しながら、含蓄のあるお説教をされました。受堅者はひとりひとり司教さまから按手と塗油を受け、満席の会場からは暖かい拍手が送られました。記念撮影のあとイグナチオホールでの「お祝い会」では、英主任司祭からは証書と記念品が渡され、また今回の受堅者は全員が中高生生なので、中高生会の代表から、お祝いの寄せ書きの色紙を送られ「ぜひ中高生会に入会を」と熱い勧誘のことばもありました。最後に典礼聖歌391番「ごらんよ空の鳥」を歌ってお開きとなりました。



◆社会活動部 今月の予定

6月7日	（水）	10:00～	手芸の集い	第1、第2会議室
6月10日	（土）	10:00～	炊き出し	中央教会内活動センター台所 メニュー カレー
6月23日	（金）	9:30～	ともしび会	教会台所（養護施設の子どもたちへのケーキ作り）

≪ 三日月会総会と講演会 ≫

5月15日（月）に三日月会総会と講演会が行われました。いつものように大聖堂で中村神父様の司式によるミサに始まり、イグナチオホールに場所を移し総会を行いました。

総会では提案された第1号議案から第5議案まですべて承認を得、無事終了しました。

その後は、JR六甲道駅そばの奥野クリニック院長（六甲学院・京大医卒）に「今、私たちのできること～自分の健康と幸福のために、自分の周りの社会のために、地球環境のために～」というテーマで、1時間30分余りお話をいただきました（写真）。先生はガン専門医の立場から、患者さんに寄り添った心のケアについて話されましたが、そこに「祈り」の概念が入っているのに感銘を受けました。「病と闘うのではなく、ご自分の健康と幸せをご自身で実現するためのお手伝いをします」と、クリニックの看板にも書かれていますが、先生は患者さんの緩和ケアなどのサポートだけではなく、ヘルスコンサルティングにより、ガンに罹っていない方へ「ガンになり難い生き方」も提案しておられ、ガン治療だけでなく、内科一般の診療もされています。

今回の講演について、参加された方々は熱心に聞かれ、異口同音にいいお話だったと、感想を述べながら帰って行かれたのが印象的でした。（三日月会会長 蛭田 武）



私の好きな聖書のことば

Mary Grace; Kamaliah Lewis Yuriko

『わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしめにも目を留めてくださった
からです。』

今から後、いつの世の人でもわたしを幸いな者と言うでしょう、
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。
その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、
主を畏れる者に及びます。』

ルカ 1:46-55 「我が心、主を崇め」



これらの聖句は、私が聖書のなかでとても大切にしているもののひとつです。賛美と感謝に満ちていて、美しい詩のように感じられます。そして、その言葉は女性の本質と女性としての気品に満ちたものだと言えるでしょう。私たちはこの無垢な少女（マリア様）の上に真の信仰、希望、愛に満たされた高潔な若い女性を見ることが出来ます。ここに、若く純潔な少女たちのための完璧な規範があるのです。

もう何十年も前のことですが、神戸の青谷にあるステラ・マリス・インターナショナルスクール（海星女学院）でシスター・ポールは、受け持つクラスの一つで、私たち15歳になる少女たちにこのMAGNIFICAT「我が心、主を崇め」を暗唱させたのは、そのためだったかもしれません。彼女は私たちが聖母のような女性になることを望んでいました。

私はこの祈りを唱えるたびに喜びに充たされます。そして、師と仰いだ多くのすぐれた方々への感謝とともに、私が人生を歩みはじめる最初に神がこうした規範をお与えくださったことで、私を生涯を通して助け導き、私が神を見出し神に従うことができるように支えてくださったことに感謝しています。

(Torrance, CA USA 在)

原文は英語。編集部で和訳しました。

《 春の黙想会 》



5月20日土曜日、「聖イグナチオの霊性の基本を学ぶ①」をテーマに10時から15時まで、春の黙想会（宣教・養成部主催）が行われました。指導は英隆一朗主任司祭。遠方のお教会からの参加者もあり、約90人が集いました。黙想会は途中に昼食と休憩をはさみながら、1回につき30分の講話と30分の個人黙想を4回、終始沈黙を守って行われました。

「聖イグナチオの霊性の基本を学ぶ①」とあるように、黙想会は今後、今回を含めて、春・秋の年2回、3年間にわたり全6回、同テーマによる学びの講話と黙想が行われます。

講話をはじめめるにあたり英主任司祭は、黙想指導の必要性について、身体トレーニングを行うとき、やみくもに行うより、一定のプログラムに従いトレーナーの指導を受けることがより理想的であると同様、霊魂を整えるエクササイズ（黙想）も、やはり指導者のもとで行うことが大切であるとされました。

4回の講話では聖書を繙きつつ黙想の課題が与えられました。「神様は自分に何を（すること）をお求めになっているか」（マタイ3:13）、「霊的自由を保ち、心が平安であるのはどんなときか」（マタイ6:25、エレミア20:7、イザヤ6:8）、そしてイグナチオの霊性を学ぶ上で最も大切な「識別」。何が助けで何が妨げか—その時々状況によって変化することにまどわされず、「今、ここ」を大切に、魂のありようの軸がずれていないかの振り返りを行い整理してみる・・・など。（マタイ6:24-29、7:1-6）。そして、「神のみ旨を知り、それを選んでいくこと」（マタイ7:7）。次回黙想会は10月28日（土曜日）に開催されます。

（写真は、講話の英主任司祭と会衆のみなさん）

今月の聖人 聖アロイジオ・ゴンザガ



1568年イタリアのマントバ地方、名門ゴンザガ侯爵の家庭に生まれました。幼少の頃から軍人志望で貴族の生活に満足しませんでした。かたわら霊的生活に魅せられ「詩編」を愛読したと言います。ゴンザガ家の嫡男としての威厳を保つためメディチ家に入り、教育を受けたものの、虚栄や陰謀が渦巻く世界に嫌気がさし、司祭への召し出しを考えるようになりました。12歳のときに枢機卿カロロ・ボロメオがゴンザガ家を訪問、その出会いによってますます霊的生活を日課として過ごすようになりました。1582年スペインに渡り、イエズス会の存在を知ります。父親を説得しゴンザガ家の相続権を放棄して、1585年イエズス会に入会しました。ロベルト・ベラルミーノ（2022年月9月号参照）

から大きな影響を受けています。1591年、ペストが大流行した際に献身的な働きをしましたが、自らもペストに倒れその年の6月21日、23歳の若さで帰天しました。列福が1605年、列聖は1726年です。彼は司祭にもならず身分は神学生のままでした。

（詫 洋一記）

六甲教会オルガニスト二人がコンサート

当教会のオルガニスト三浦優子さんと伊藤(土田)ルミさんのお二人が今月、コンサートを開きます。

♪ 三浦優子さん(<https://www.facebook.com/yuko.miura.543/>)

市民のためのオルガンコンサート～パイプオルガンとマリンバの調べ～

- ・ 6月9日(金) 13時30分開演
宝塚ベガホール(阪急宝塚線 清荒神駅下車すぐ)
- ・ 入場料: 当日 1,000 円(前売 800 円)
- ・ 出演: 三浦優子(パイプオルガン) 西尾知子(マリンバ)
- ・ 曲目: ポール・クレストン「マリンバとオルガンのための瞑想曲
N. de グリニー「来たれ、聖霊よ」
J. S. バッハ「前奏曲とフーガ イ短調 BWV543」,
「ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 BWV1041」 ほか



♪ 伊藤ルミ(土田ルミ)さん

フランティシェック・ノボトニー&伊藤ルミ デュオコンサート

- ・ 6月15日(木) 15時開演
兵庫県立三木山森林公園 森の文化館1階音楽ホール
(神戸電鉄 恵比須駅からバスで8分)
- ・ 6月17日(土) 15時開演
神戸新聞 松方ホール(神戸ハーバーランド駅から徒歩6分)
- ・ 入場料: 当日 4,000 円(前売 3,500 円)
- ・ 出演: フランティシェック・ノボトニー(ヴァイオリン)・
伊藤ルミ(ピアノ)
- ・ 曲目: ベートーベン ヴァイオリンソナタ第5番「春」
ブラームス ヴァイオリンソナタ第3番
カッチーニ アヴェ・マリア
ヤン・ノヴァーク 無伴奏ヴァイオリンソナタ
ユミイトウ つきづきにつきみるつきはおおけれど…(新作初演) ほか



＝お知らせ＝



①片柳神父さまの講演会
6月10日(土) 14時～
神戸中央教会
演題「日々を生きる力」
＝あなたを励ます聖書の言葉＝

訂正(5月号教会報)

- ・ 図書室模様替え等へのご提案について:
ご意見箱の設置場所は、正しくは「図書室内」でした。
- ・ オープンスペースの開放時間について、
平日 17 時までとなるのは「火曜日」です。

② 洗礼式(5月8日)の集合写真は、受洗者全員に差し上げます。教会受付でお受け取りください。

読書会が活動を再開

コロナ禍の下で長らく休眠中であった「読書会」が再開されます。5月17日(水)有志が集まって協議の結果、毎月第3水曜日の午後(1:30～3:30)に、教会の会議室を借りて再開することになり、あらためて「三水会」と名付けられました。それぞれが個別に選んで持ち寄った本について感想をのべ意見を交換したり、または、ある一冊の本を皆が読んで考えたことを分かち合ったりという二つの異なったスタイルで、自由闊達な読書会を目指しています。次回は6月21日(水)です。

お問い合わせは曾我邦子さん(kunikosoga@aol.com)まで。

六甲春秋 イエスの身体と血に与る

6月11日(日)、教会は聖体の祝日を祝う。かなり以前に、小林の聖心女子学院で荘厳な聖体行列が行われ、その晴れやかな有様を懐かしく思い出す方々も居られることだろう。主イエスの昇天、三位一体、聖体、聖心という、神の大きな神秘が次々に記念されるが、私たちに身近な聖体について少し考えてみよう。

主イエスは過ぎ越しの食事を弟子たちと祝い、その席上で十字架上の奉献のかたどりと、ご自分の体と血とを弟子たちに分かち与えた。ミサは、犠牲と食事という二つの根幹を持っているが、主宰されるのはイエスその人である。ミサの中で、これは私のからだ、これは私の血と宣言され、聖体拝領によって私たちはこの聖なる食事に招かれ与るようになる。しかしそれは、十字架上でむごく苦しみ痛み付けられたイエスの身体ではなく、神の力によって復活の栄光に輝く身体を戴くのである。だからこそ、ローマの厳しい迫害時代にキリスト者は、官憲の追及の手を逃れて地下の墓地・カタコンベで集まり、ミサを祝った。まさにイノチがけの行であった。また時には誤解されて、赤子を殺してその生血を共にすすっているのでは、とあらぬ噂を立てられたという。日本の迫害時代でも司祭たちは、僻地に潜行しては殉教を恐れず密かに隠れて、信徒のためにミサを捧げた。

イエスの十字架は本来の歴史的な見方は、苦しみ辱しめの極みである恐ろしい刑具であったが、イエスの死に至るまでの奉

献によって、復活に至る道としてあらゆる美と贅を尽くし飾り立てられ、勝利と栄光とのしるしとなったのである。その意味では、キリスト者ではない人が、胸元の装飾品として十字架を愛用している事に微笑まされる。初代教会は「主の日」を今の日曜日ごとに盛大に祈念したが、その関連で安息日を土曜ではなく日曜日に替え、こそって主イエスの復活の日として喜び祝った。ここに、主の日と主イエスの復活と主日のミサとの本質的な結び目がある。私が修練期の実習で、東京に行きドイツ人の神父のもとで働いた事があった。たまの日曜日ということで掃除や洗濯に励んでいたところ、厳しい叱責を受けた。何と今日は主の日だからということだった。たしかに半世紀以上も前のドイツでは、日曜日に店を開いて営業していると、警察官がやってきて禁止したのを目撃したが、さて今はどうなっているのだろう。

復活したイエスの身体を戴く私たちの内奥で、イエスは血となり肉となって私たちを救いを告げ知らせる者、救いをもたらす同志として遣わしている。喜び勇んで外に出かけ、復活された主イエスを携えて人々に立ち混ざり、パン種とも地の塩ともなりたいものだ。

「主は、私のために身体を備えてくださった。・・・・その時言った、み旨を行なうため私は参りました」と。

中村健三 合掌



●ベトナム青年たちとの交流

6月25日(日)、カトリック大和高田教会のベトナム人信徒の青年たち(20~30人)が、当教会を訪問し10時のミサと一緒に与かります。その後、イグナチオホールで簡単な歓迎会。引き続き準備が整った時点で、バーベキューをメインに一緒に楽しい時を過ごしたいと思います。お時間の許すかぎり、ぜひご参加下さい。(地区会代表 井川直哉)

【2023 年 6 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 ◎灘南・神戸西	
4	5	6	7	8	9	10
三位一体の主日 年次報告会 10 時ミサ後 教会学校遠足					◎灘西・中央	社会活動部 炊き出し
11	12	13	14		16	17
キリストの聖体					イエスのみ心 ミサ 7:00 10:00 ◎大阪シナピス	
18	19	20	21	22	23	24
年間第 11 主日					◎東灘北 1	洗礼者聖ヨハ ネの誕生 ◎土曜班
25	26	27	28	29	30	
年間第 12 主日 聖ペトロ使徒座への 献金 侍者練成会 11:00 施設管理部会 11:30				聖ペトロ 聖パウロ 使徒	◎東灘北 2 ・ 芦屋	

◎は掃除当番

編集後記

6 月は「更衣」（ころもがえ）の季節。軽快な服装になると、ついでにマスクも外したくなります。もう自由に判断してよいはずですが、まだ警戒感が強いのか、マスク姿も結構多いように思います。コロナ第 9 波の声もちらほら、あの重苦しい暮らしはもうまっぴらなのですが…。(余)

・次回 7 月号の発行は 7 月 1 日（土）です。
原稿は毎月 15 日ごろまでに、教会受付へ直接
ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。
(renraku@rokko-catholic.jp)。
皆さまからのご寄稿をお待ちしています。
・教会 SNS チームは、フェイスブック、インスタグ
ラム、ツイッター、YouTube チャンネルで配信し
ています。「六甲カトリック教会」で検索してみ
てください。

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

<http://www.rokko-catholic.jp>

発行責任者 英 隆一朗

編 集 広 報 部